

吾人は第二の全権委員を認める事は出来ない、何となれば彼等と交渉しても又下らぬ理由で取消で第三、第四、亦同じだ。コナ様な不道徳漢と無意義の會合をする程吾人は粗末な時間を持ち合さない。

引責辭職とは締結したる誓約を履行して後組合員に對して申譯になすものだ第二の全権委員を辭すなら第一の全権委員が約束を締結する以前に於て其實に堪へず辭任して然る後出すべきものだ。此位の事が分らないで団体運動が遂行出来るか。

試みに思へ、日露戦争終結の當時小村全権が締結したる條約に對して我國民の大多數が反對した。あの時小村全権が自殺しても條約は無効にはならないのだ。第二の全権は送れないのだ。小村全権が承諾する事は國民が承諾した事なのだ。組合の代表者同志が締結した事は組合員同志が約束を結んだ事なのだ。之を互に守るのが団体の徳操だ徳操のない奴は人間でない。非人間共に労働運動が出来るか。

か、る不義不徳を公然と敢てしながら同夜天王寺公會堂に於て労働運動會正演説會にて何事ぞ泥舟の話はウマイ者だつたらう、虚偽と矛盾も此迄徹底すれば寧ろ愛嬌だ。鐵工組合亦有難イカナ、御目出度イカナ。

「近頃世間の争議に動かされ火事泥的に機械労働組合が発生した」如何なる事實を以て云ふか。

我が大阪機械労働組合の創立せられたる動機は實に彼大阪鐵工組合の墮落と大同團結の必要を痛感するに至つた。労働者の自覺並に友愛會の産業別組合組織の活動とに基因するものである、従つて大阪機械労働組合の發生を説明するには是非大阪鐵工組合の墮落を物語らねばならぬ事を我々一番苦痛なんだ。金錢上にも執務上にも兎角の批難があるが、そこまで書くには忍びない、そんな事は何ふでもよろしいとして、同組合の常務理事であつた金子氏が労働組合の大合同の爲に關西労働組合聯合會を組織せられた時の如き率先加盟すべき筈であるにも拘らず獨り加入せなかつた事は労働團結の意義を解せずして他く迄御山の大将で居りたい奴輩である事を表明したのだ、其の時彼等は名ばかりの集りでは駄目だと反對したが、日本職工總同盟は實に伴つて居るのか、群雄否群小割據の封建的組合では在籍がないと覺醒し同組合から多意氣投合し二月十六日公益社に創立委員會を開くにつつたの前後後着々と發展し五月一日關西最初の労働祭の大示威運動には大學参加し其の實力の大を示した事は世人の知る處である。彼等の云ふ處によれば機械労働組合が驚くべき發展を遂げた形勢だ、然るに彼等は「火事泥的に發生」が急速發展の形容詞だなどは社會一般に通用しない、たゞる無能詭辯を弄する彼等に労働運動の正道の歩めないのも無理ではない、未だ我々の仲間にはこんな馬鹿があるから情けなくなる。更に大阪機械労働組合は何時工場委員制度に反對した事がある今春來頻々として起りし労働争議に極力應援し肉体的にも物質的にも多大の犠牲を拂つた事は世人周知の事實だ。之れ一つに此の制度をあらゆる工場に實施せしむる機運を造らんが爲であつた。殊に組合島屋支部は此の制度を欲求して住友と戦つたではないか、我々が七月廿四日七章五ヶ條よりなる草案を會社に提示するに當つて鐵工組合事務所を訪れ草案一通を送り共同努力せん事を申入れたるに鐵工組合は之に對して何等の答もしなかつたではないか、自らの冷膽を棚にして他を責める彼等の愚や笑ふに堪へたり。

彼等の云ふ處に據れば工場委員制度は勞資協調である。そこで勞資協調主義に反對する組合は工場委員制度に反對であらうと解釋したのだと、然し工場委員制度は勞資協調の專用ではござらぬ、労働組合主義を遵奉する労働組合が工場委員制度を主張する事能はざる理由何れにありや。

吾人は鐵工組合が本然に立ち歸るの日を待つ事久しく又労働運動の正道に引き入るべく努めて來たが悲しい哉墮落の谷底に沈溺し終り今や如何ともなし能はざる状態である。か、る不義不徳漢其群衆の集りを吾人は労働組合と認め能はざるなり。

鐵工組合員諸君此際猛省する處あらば幸なり。若しそれ異議あらば立會演説でも申込め其も嫌なら純労働新聞を通じて勝手な熱でも吹け。

彼等の虚偽に迷はされざらんが爲に敢て萬天下の労働者諸君に告ぐるものなり

## 大阪機械労働組合